

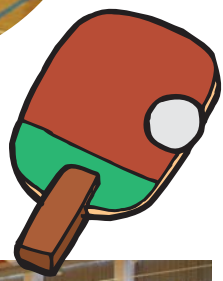


45歳以上の方であれば誰でも気軽に参加できる「マスターズスポーツバドミントン大会」を1月22日(日)東野幌体育館で、同じく卓球大会を同月29日(日)市民体育館で、合わせて107人の参加を得て開催しました。2競技とも、年齢にかかわらず生涯にわたって続けることができるスポーツの代表格で、市内各地区には多数のクラブ・サークルもあり、みなさん元気に活動を続けられています。

この大会は、そうしたクラブ等に所属していない方でも、ペアを組む合計年齢によって対戦



相手が決まるため、無理なく参加できるコミュニケーションスポーツイベントとして楽しく和気藹々とした雰囲気の大大会です。冬の運動不足解消に、また仲間とのコミュニケーションに、来年は是非みなさんも参加してみませんか。



マスターズスポーツ大会を開催しました 江別市スポーツ振興財団

江別二中に赴任し、代々木町に移り住んで4年が経ちました。赴任当初、グリーンモールの中に位置する二中の周辺の木々の多さと、豊かな緑に囲まれたレンガ造りの瀟洒な建物に感激しました。ららららと歌いたくなり、グリーンモールは、市民の憩いの空間にすることを目的として意図的に緑地帯を造ったと聞き驚きました。最初の印象は、大火を防ぐための防火林のかなと思えました。樹々の見事さもさることながら、二中の杜には小動物達のライブがあります。カラスが生まれ育ち、彼らを見ていると外の世界には関心がなくいつも同じ所を飛び回り、時折、買い物帰りの高齢者に餌をねだっています(ねだり方は、鳥流にやや脅迫めいています)。エゾリスは二匹おり、平然と人前に姿を現しせせと餌を探し回る光景に出会います。生徒達は見慣れているせい、余り気にもとめません。ある生徒は「学校で飼った」とか、別な生徒は、「放し飼いが、お互い気を遣う必要が無いからいいや」と進言してくれま

す。こっそり、虫食いの栗の実を木の根元に置いたりしています。昨春、隣の開村記念緑地にある市指定の大きな桜の幹でアカゲラが子育てをし、無事巣立っていきま

した。夏頃、チゴハヤブサが狩りをするために低空で飛翔する姿が見られます。勿論、蝶、トンボ類、なんと言っても多いのが、様々な虫、微生物が暮らしています。虫の好きな人はいないと思いますが、この微生物の豊かさが、豊穡な大地を造ります。しかも、二中周辺は、粘土のため水持ちが良く、植物の生長にぴったりの環境です。果樹は大変良く育つのですが、いろいろな虫があまりに多すぎて、果樹栽培を嫌う人が多いです。

学校の隣の開村記念緑地には、野幌屯田の歴史が刻まれた碑があります。開墾、防衛、街づくり等々多忙で、当事の屯田兵の情熱が伝わってきます。とりわけ、教育には力を入れたと刻まれています。因みに、二中の敷地は野幌屯田の財産区であった場所です。初代の井村校長は、屯田兵の子孫です。彼のすばらしさは、新制中学がスタートしたばかりで、校舎を二小で間借りしていた時に、生徒会(若草会)を立ち上げたことです。戦時中の反省から、生徒達に自治意識を育てようと考えたことに志の高さを感じます。その精神は、絶えることなく後輩に受け継がれています。それが二中の同窓の絆の強さの源ではないかと感じています。

ららららの街作りとして、修学旅行の目的地、例えば、平泉、奈良、京都等に共通しているのは街がともきれいです。緑が豊かで、しかもそれを大切にしています。みんなであらららと歌いながら、街をきれいにすることにチャレンジしても良いのではないかと思います。また、病弱な人や高齢者にとって住みやすい街は、誰にとっても住みやすい街になります。江別は市立病院を再生させた実績がありますので、医療の充実に力をいれて欲しいと願っています。更に、保育、学校教育、野幌公民館等の生涯教育等々、ららららの活動をもっと充実させることを期待しています。「医療と教育、ららららの街」をキャッチフレーズにすれば、ららららの街で子育てをしたい、退職後生活したいと思う人が増えます。人が増えれば、産業が発達し、雇用の機会が増し、更に文化が発展します。

終わりに、二中4年間の経験から、ららららの街の将来像を思い描いてみました。今年1年、ららららのリズムに乗り、市民の皆様のご健康とご活躍を心よりご祈念申し上げます。

今、「誰もが、生涯のいつでも、自由に学習する機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会」つまり生涯学習社会に向かって進んでいます。

人は、なぜ生涯を通じて学ぶ必要があるのでしょうか。今、心の豊かさや生きがい求めて学びたいという人が増えていきます。学習の場は、学校もありますが、学校以外、例えば企業、カルチャーセンター、公民館、博物館、美術館、図書館などの社会施設。スポーツ施設、文化施設も学習の場になりうると思います。年齢に関係なく全ての人が生涯学習の対象となります。

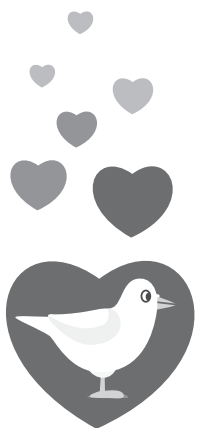
私は、歩くのが好きです。休日を利用して歩くようになって、10年近くになりました。近年の健康志向ブームからでしょうか、朝早くからお一人で、またご夫婦で、犬を連れながら校区を歩いている姿を多く見受け

ます。私は、野幌に赴任して3年目になります。私の歩くコースは基本的に2コースです。無理をしない1時間程度、歩くことにしています。1つは公宅のすぐそばの北海道情報大学から国際交流センター、高速道路を横に見て、雪印種苗技術研究所を過ぎ、レンガ工場(白樺通りに抜ける)のコース。もう1つは道立野幌総合運動公園コースです。特にこのコースは、野幌原始林の春夏秋冬、いろいろな姿を見せてくれます。ミズバショウなどの水生植物の群生、桜の名所千古園、秋の紅葉、そして、いろいろなイベントを開催してくれているセラミックアートセンター、各種スポーツ大会が見られる運動公園にある各施設。私の散歩コースは、正に生涯学習の場であります。その

生涯学習社会の観点からも江別(野幌)は、すばらしい地域財産を持っている都市です。残念ながら、私は3月末で、野幌の地を離れます。自然に親しみながら、心地よい汗をかきに、再び訪れたいと思っています。

こんにちは！ 江別ユネスコ協会

ユネスコ協会は、ユネスコをPRしサポートして民間ユネスコ活動を推進する国際的な市民団体です。江別ユネスコ協会は現在、教育・科学・文化に関する講演会と学習会の開催を中心に活動しています。本年度は原子力発電についての講演会、小学生の英語教育、北海道のサケ漁の歴史、エゾシカの現状と保護、世界遺産の問題点などをテーマとする学習会を開催しました。ほかに、世界遺産パネル展やカレンダールの国際交換、書損しハガキ・使用済み切手の回収運動など、いろいろな活動をしています。また、毎年、全国大会・全道大会に参加し、4年に1度は世界大会があつて本年度は江別からも参加しました。



江別更生保護女性会 創立45周年を迎えて

江別更生保護女性会は、創立45周年を迎えました。

平成23年6月25日江別市コミュニティセンターに於いて創立45周年記念式典を開催いたしました。

当日ご来賓として、江別市長 二好昇様、江別市社会福祉協議会会長 湯浅國勝様、江別地区保護司会会長 片山浄教様にご出席いただきました。

開会に先立ち東日本大震災でお亡くなりになられた多くの方々のご冥福をお祈りして黙とうをいたしました。続いて、ご来賓の皆様からご祝辞を頂きました。

第一部 お琴と手打ちそばの饗宴

舞台では、横山美衣先生のお琴のすばらしい演奏、そして会場中央では、そば打ち三段位の服部渉氏の蕎麦打ちの実演に感動いたしました。

昼食には、その蕎麦を会場の皆様に冷めたいざるそばと、温かい天ぷらそばで召し上っていただきました。

ご招待いたしました被災されたご家族の方も、とても美味しいと云ってくださいました。お昼休み時間も十分にとり午後の演奏開始です。

第二部 邦楽演奏(琴・三絃、琴・17絃、尺八、フルート)

横山美衣先生とご一緒においでになられた4名の先生とのすばらしい演奏に会場の皆様もしばしウットリと聞き入っておられました。

第三部 お琴と更生保護女性会の合唱

私達コーラス部員にとりましては、夢のような舞台に立たせていただきました。

江別演劇鑑賞会

思い出のアルバム、あぞみの歌、荒城の月、最後は会場の皆様と故郷の大合唱に涙を流された方もいらした様です。

昨年は、大震災という日本にとって大きな大きな不幸の出来事の起きた年とも重なり、忘れることのない日となりました。

帰り際に「故郷は胸一杯でうたえなかつたよ」その一言が強く、深く心に残りました。

私達の江別更生保護女性会は、これからは会長を中心として、会員一人ひとりが、自分出来ることで協力をし、女性としての優しさを忘れずにこれからもお手伝い出来ればと思っております。

佐藤 幸子



「江別生涯学習インストラクターの会」の事業に役立てました。

8月7日、えぽあホールで「夏の雲は忘れない」を上演しました。当日は立ち見が出るほどの盛況でした。渡辺美佐子さんをはじめとする女優たちと、江別市の5名の女子高校生が、広島・長崎に落とされた原爆により奪われた尊い命、輝く未来を失ってしまった人々の深い悲しみを朗読という形で訴えました。声高に戦争の非を問うのではなく、音楽とスライドを使ったシンプルな演出が観る者の心を打ち、高校生の真摯な姿にも絶賛の声をたくさんいただきました。上演に際し、協議会からのご協力をいただき、誠にありがとうございました。

この会では、年間3回の講演会を予定しており、今年も8月に「江別は今も昔も文化の交差点」、11月に「認知症を正しく知って、あなたもサポーターに」、24年1月には子育て支援として「親子で遊ぼう☆ヒントがいっぱい」と題して行ないました。いずれの会も40名程度の参加があり、次回を希望する声もいただきました。

この、講演会に御支援いただきましたので、大変円滑にそれぞれを運営することが出来ました。直近の1月28日に行われた子育て支援の実践には、野幌公民館大ホールを会場にして15組(悪天候のため欠席3組)が走ったり、ボールを作ることから始まり、投げたりと身近なもの(新聞紙

やチラシ)で十分に親子で楽しめるおもちゃが出来たことを経験してもらいました。講師には元子育て支援センターすくすくの園長先生小泉啓子氏をお願いしましたが多くの経験から話される一言、一言が共感を持って若いお母さんお父さんに届いたのではないかと思います。参加の皆様、お手伝いの「こねっと」の皆様もありがとうございました。

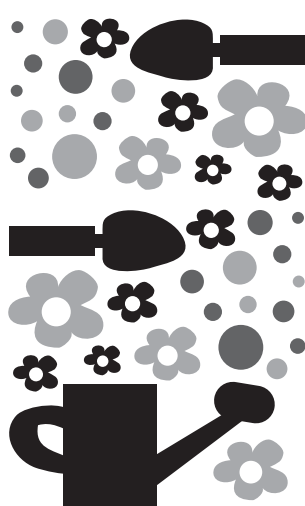
野幌商店街振興組合

昨年の10月23日に野幌駅高架開駅イベントを、1週間行ないました。

特に10月29日は「祝開駅ハッピーハロウィン」を開催し、約700名の子ども達が仮装し、「ハロウィン」を合い言葉に各お店巡りをし、笑顔でお菓子を貰い、楽しんで1日を過ごし、午後から仮装コンテストに参加してもらいました。

又この日は、イベント特設会場では江別第二小学校6年生全員が参加し合唱し、若葉小学校の「みんなで踊り隊」も参加して鳴子踊りを披露してもらいました。

この日はとても天気が良く、イベントを見に来集まった人達も北海道の短い秋を満喫してもらいました。



江別まつことええ&北海道情報大学 被災地応援ツアー報告と新入会員募集

東日本大震災の被災地に元氣と笑顔を届けたいという願いで、9月24日(土)～25日(日)茨城県神栖市の『ぶっちゃげ祭り』に出場してきました。

最初の演舞は、茨城空港到着後、即、行いました。滑走路をバックにしての貴重な経験となりました。その後は、祭り会場を埋め尽くす大勢の方々と一緒に、精一杯の演舞を披露しました。回を重ねる度に、会場から「江別まつことええ」との熱い掛け声がかかり始め、あげるより大きなパワーをもらって帰ってきました。



住宅や道路は傾いたけど、祭りを中止せずにやり遂げた真つ直ぐな思いの強さを見習い、我がチームも「江別に大賞！」の夢が叶うその日まで、信じた道を進んでいきたいと思えます。2012年はチーム結成20周年の記念すべき年。多くの支えに感謝して、踊っていきます。応援そしてチームへの入会もよろしくお願いたします。



札幌学院大学 心理臨床センター 市民講座開催報告

去る10月16日、野幌公民館において札幌学院大学心理臨床センター市民講座「こころの健康2011」が開催され、70名の方の参加がありました。

昨年度以来2回目の今年度は「こころの育ち」というサブテーマを設け、「児童期のこころと育ちの支援」、「青年期のこころと社会化」、「中高年期のこころと生涯発達」という題目で、それぞれのライフサイクルに応じた「こころの健康」のヒントがあることについて、本学講師の豊富な臨床実践の中から語られました。質疑応答では、「中高年と青年が語り合えるような居場所をつくってほしい」との具体的な提言がなされ、「世代と育ちをつなぐ」ということについて、真剣に考える時間となりました。



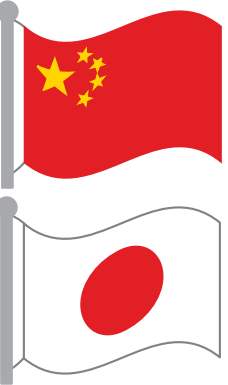
江別日中友好の会 平成23年度 日中文化講演会開催

江別日中友好の会では、去る11月20日(日)市民会館において、「日中新時代の友好交流」と題して、北海道大学大学院教授高井潔司氏による講演が開催されました。

講演では、中国留学生の現状について、かつて電車賃にも事欠いていた頃とは違い、携帯電話やパソコンを持ち、自動車で旅行を楽しむ遊学生が増えているという。

日中友好は支援活動からの交流そのものではなく、これからは国や民間において時代的变化に応じた戦略的互恵関係をもつて対等な友好交流が必要となってきました。この事は神戸の野球少年の交流、東北農村青年の交流が映像によって語られ交流の輪を広めています。

毎回、講演会は好評で、いろいろなジャンルの講師を招いていますが、平成24年度は是非皆様参加してみてください。



えべつイベント

● 江別保健所管内栄養士会

「栄養士の簡単クッキング」
3月11日(日)

野幌公民館調理室
10時～12時30分

● 北陽美術協会

「春季小品展」
3月22日(木)～27日(火)
野幌公民館

★ミニ手話★



《あとがき》

「ら・ら・ら」も今回で60号を迎えました。年4回出しておりますので、15年になります。

谷川会長さんが常々他の会は何をする会かおぼえるようにとおっしゃっていますが、役に立っていないんじゃないかと。

(三井房子)